金沢大学未来ビジョン

Version Up　2026

2026年9月30日

改　革　戦　略　室

はじめに

金沢大学長
和田 隆志

令和６年１月１日に発生した令和６年能登半島地震及び令和６年９月に発生した奥能登豪雨により、能登半島を中心に、各地で甚大な被害が生じました。被災された全ての皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興・再建に向け、石川県に立地する総合大学として尽力してまいります。

発災直後から、金沢大学が持つあらゆる力を結集し、初期の災害対応に取り組んでまいりました。令和６年１月末には「能登里山里海未来創造センター」を設置し、中長期的な視点で「地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与し、被災地に寄り添い、震災復興に当たる体制を構築しました。「オール金沢大学で『未来知』により社会に貢献する」という揺るぎない理念並びに「志」の下、「未来知」を結集し、能登で新しい価値を創造し、未来の社会の姿を示すことに加え、その姿を国内外へ発信します。これらを通じて、アカデミアとして震災復興に尽力し続けます。

金沢大学未来ビジョン「志」の策定

金沢大学は、1862（文久２）年に創設された加賀藩彦三種痘所を源流とし、旧制第四高等学校、石川師範学校、石川青年師範学校、金沢高等師範学校、金沢医科大学、金沢工業専門学校などの前身校の歴史と伝統を受け継ぐ総合大学です。

私が令和４年４月に金沢大学長を拝命した後、諸先輩が築き上げてきた歴史を礎に、金沢大学憲章に掲げる「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という基本理念に立脚して、金沢大学の揺るぎない未来ビジョン「志」を策定し、同年５月に学内及び社会に示しました。

金沢大学が目指すビジョン「志」は、地域と世界の２つの視点を互いに往還させながら、現在の課題を解決するとともに、未来の課題を探求し克服する知恵「未来知」により社会貢献を果たすことです。

「志」として掲げる未来知による社会貢献に向け、研究、教育、経営のあるべき姿を掲げます。具体的には、研究面では「独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点群の拡充」、教育面では「国際社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出」、経営面では「人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現」です。

これら３つのあるべき姿は、互いに密接に関連します。研究と教育が互いに好影響をもたらすポジティブループを形づくり、同時に確固たる経営・マネジメントがその基盤を支えます。３つの機能を一体とし、「志」として掲げる未来知により社会に貢献する、これが金沢大学の目指すビジョンです。

基本理念のもと、揺るぎない未来ビジョン「志」を明確にし、研究、教育、経営それぞれのあるべき姿を掲げました。そのビジョンに向け、“いま”金沢大学が何を為すべきかというミッションと、“いま”金沢大学が何を行うのかという個々のアクションプランを掲げました。

「志」策定後の取組

金沢大学未来ビジョン「志」を公表してから約４年が経ちました。「志」の実現に向けて、学生、教職員がそれぞれの立場を超え、互いの尊重と協働のもと「オール金沢大学」で取り組んできました。その努力は、研究、教育、経営ともに実を結んでいます。

独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点群の拡充に向け、統合創成研究環のもと、文理医の緊密な連携により基礎研究、応用研究、社会実証研究を通じた「未来知による社会貢献」を加速しています。令和５年度に「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS)」に採択され、文理医融合による非連続なイノベーションを起こす世界的拠点の形成を具体化しています。本学が100％出資するベンチャーキャピタル「株式会社ビジョンインキュベイト」が運用を開始しました。令和７年度には実証研究の中核となる「未来知実証センター」も本格稼働し、基礎研究から文理医融合研究、実証研究、社会実装まで一気通貫の支援体制を構築しました。令和８年度に「先端研究基盤刷新事業（EPOCH)」に採択され、研究基盤の刷新モデルを構築し、全国・世界へ展開します。国際ラボやEXPERT-J 等を通じて、国際的なコミュニティを形成し、組織的な国際共同研究が進んでいます。グローバルな研究大学として研究力を高め、社会実装を進めることで、さらなる社会貢献をしていきます。

国際社会の中核的リーダーたる金沢大学ブランド人材の輩出に向け、未来創成教育環のもと、KUGSを基軸とした初等中等教育から大学院まで一貫した教育・支援システムを構築しています。令和５年度に「次世代科学技術チャレンジプログラム」（小中高型）に採択され、小中高校生・高専生を対象とした長期的かつシームレスな育成プログラムを提供しています。同年には、本学でＧ７富山・金沢教育大臣会合エクスカーションが行われました。Ｇ７各国の大臣、国際機関の代表者が訪れ、学生、生徒、教員と直接対話する大変貴重な機会を実現することができました。令和６年度に「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択されました。国際が日常にある、日常が国際である大学に向けた国際化が進んでいます。国際日本研究教育センターが中心となり、日本語教育、伝統文化等を軸にした多文化共修を展開しています。令和７年度に「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業（FLAGs)」に採択され、大学院教育先導機構の下、新たな価値を創造する博士人材を育成しています。より多くの学生が大学院進学を決意し、博士課程での研鑽を積むために、博士研究人材支援・研究力強化戦略プロジェクト（HaKaSe+）の取組も推進しています。

人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現に向け、教職員が協働して、先駆的・戦略的な改革を推進しています。令和４年度「国立大学経営改革促進事業」に採択され、複数の世界的研究拠点を有するグローバルな研究大学というあるべき姿に向けて、人への投資、プロジェクトの推進を強力に進めていく基盤を構築してきました。また、北陸経済連合会のコーディネートのもと、本学を含む北陸地区の４つの国立大学が共同で運営を行う「北陸未来共創フォーラム」を一層充実させます。本組織を通じて、産学官連携によるオープンイノベーションを加速させていきます。あわせて、持続可能な経営を支える基盤として、コンプライアンスの徹底とリスクマネジメント体制の強化を進めています。研究・教育の健全性や情報セキュリティをはじめとする課題に、全学的な体制で対応します。

能登半島地震からの創造的復興に向けて、能登の復興を起点に日本の未来をつくるオフグリッド集落「未来知 MITSUKE プロジェクト」の構築が進んでいます。少子高齢化・過疎化が進行する課題先進地における自立分散型コミュニティモデルを構築し、各地に展開していきます。また、令和７年度から「防災・復興人材特別プログラム」を開始し、国内外の復旧・復興と防災・減災に貢献できる人材を育成しています。

これらの成果は、金沢大学があるべき姿となるための通過点です。「志」の実現に向けて不断の改革を図るため、「志」の策定、ミッション及びアクションの実行、毎年度の自己点検評価及び結果を踏まえた見直しという PDCA サイクルが定着しています。今回の改訂は、第５期中期目標・中期計画を見据えて行うものです。2040 年に目指す姿である「未来知により非連続なイノベーションを創出し、新たな価値を創造し続ける大学」の実現に向け、構成員一同、研究大学として研究・教育に邁進します。

社会の皆様からのご理解とご協力、並びに叱咤激励を心からお願い申し上げます。

全体構造・概要

金沢大学未来ビジョン「志」

オール金沢大学で「未来知」により社会に貢献する

大学憲章に掲げる基本理念に立脚し、金沢大学が目指す揺るぎない未来ビジョンを示しています。

あるべき姿

研究　独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点群の拡充

教育　国際社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出

経営　人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現

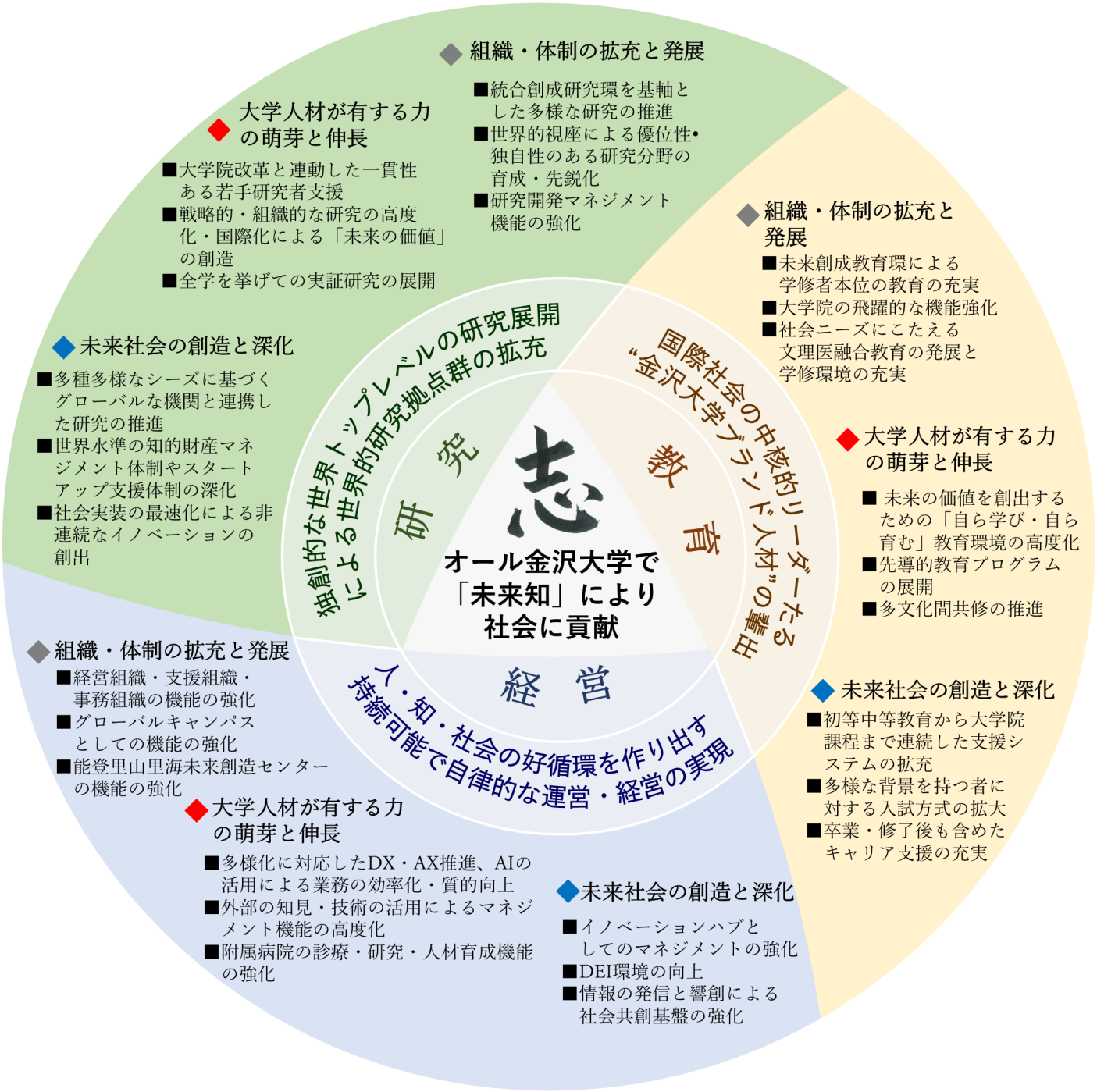
「志」として掲げる未来知による社会貢献に向け、人文社会科学、自然科学、生命科学等、多様な学問領域を有する総合大学として、研究、教育、経営におけるあるべき姿を明示しています。

研究、教育、経営のあるべき姿に向かって、それぞれ「組織・体制の拡充と発展」「大学人材（学生・教職員）が有する力の萌芽と伸長」「未来社会の創造と深化」の３つの視点から、“いま”金沢大学が何を為すべきかという３つのミッションを掲げています。

このように導かれた２７のミッションが相互に連関しながら、「志」の実現を目指します。

研究、教育、経営それぞれのあるべき姿と各ミッションを達成すべく、第５期中期目標・中期計画等も視野に入れて邁進いたします。“いま”金沢大学が何を行うのかを自答し、ミッションごとにそれぞれアクションプランを明確にします。併せて、今後２年間のタイムテーブルを設定し、迅速かつ大胆に大学改革・機能強化に取り組みます。

基本理念	**地域と世界に開かれた教育重視の研究大学**
揺るぎない未来ビジョン	**金沢大学の「志」** **オール金沢大学で「未来知」により社会に貢献する**
3つのあるべき姿	**独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点群の拡充** **国際社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出** **人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現**
最重点ミッション	**大学院の飛躍的な機能強化** **世界的視座による優位性・独自性のある研究分野の育成・先鋭化** **全学を挙げての実証研究の展開**


◆組織・体制の拡充と発展
■統合創成研究環を基軸とした多様な研究の推進
■世界的視座による優位性・独自性のある研究分野の育成・先鋭化
■研究開発マネジメント機能の強化
◆大学人材が有する力の萌芽と伸長
■大学院改革と連動した一貫性ある若手研究者支援
■戦略的・組織的な研究の高度化・国際化による「未来の価値」の創造
■全学を挙げての実証研究の展開
◆未来社会の創造と深化
■多種多様なシーズに基づくグローバルな機関と連携した研究の推進
■世界水準の知的財産マネジメント体制やスタートアップ支援体制の深化
■社会実装の最速化による非連続なイノベーションの創出
独創的な世界トップレベルの研究展開
による世界的研究拠点群の拡充
研究
志
オール金沢大学で
「未来知」により
社会に貢献
教育
国際社会の中核的リーダーたる
“金沢大学ブランド人材”の輩出
経営
人・知・社会の好循環を作り出す
持続可能で自律的な運営・経営の実現
◆組織・体制の拡充と発展
■未来創成教育環による学修者本位の教育の充実
■大学院の飛躍的な機能強化
■社会ニーズにこたえる文理医融合教育の発展と学修環境の充実
◆大学人材が有する力の萌芽と伸長
■ 未来の価値を創出するための「自ら学び・自ら育む」教育環境の高度化
■先導的教育プログラムの展開
■多文化間共修の推進
◆未来社会の創造と深化
■初等中等教育から大学院課程まで連続した支援システムの拡充
■多様な背景を持つ者に対する入試方式の拡大
■卒業・修了後も含めたキャリア支援の充実
◆組織・体制の拡充と発展
■経営組織・支援組織・事務組織の機能の強化
■グローバルキャンパスとしての機能の強化
■能登里山里海未来創造センターの機能の強化
◆大学人材が有する力の萌芽と伸長
■多様化に対応したDX・AX推進、AIの活用による業務の効率化・質的向上
■外部の知見・技術の活用によるマネジメント機能の高度化
■附属病院の診療・研究・人材育成機能の強化
◆未来社会の創造と深化
■イノベーションハブとしてのマネジメントの強化
■DEI環境の向上
■情報の発信と響創による社会共創基盤の強化

■研究　独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点群の拡充

1　組織・体制の拡充と発展

ミッション①　統合創成研究環を基軸とした多様な研究の推進
ミッション②　世界的視座による優位性・独自性のある研究分野の育成・先鋭化
ミッション③　研究開発マネジメント機能の強化

2　大学人材が有する力の萌芽と伸長

ミッション①　大学院改革と連動した一貫性ある若手研究者支援
ミッション②　戦略的・組織的な研究の高度化・国際化による「未来の価値」の創造
ミッション③　全学を挙げての実証研究の展開

3　未来社会の創造と深化

ミッション①　多種多様なシーズに基づくグローバルな機関と連携した研究の推進
ミッション②　世界水準の知的財産マネジメント体制やスタートアップ支援体制の深化
ミッション③　社会実装の最速化による非連続なイノベーションの創出

■教育　国際社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出

1　組織・体制の拡充と発展

ミッション①　未来創成教育環による学修者本位の教育の充実
ミッション②　大学院の飛躍的な機能強化
ミッション③　社会ニーズにこたえる文理医融合教育の発展と学修環境の充実

2　大学人材が有する力の萌芽と伸長

ミッション①　未来の価値を創出するための「自ら学び・自ら育む」教育環境の高度化
ミッション②　先導的教育プログラムの展開
ミッション③　多文化間共修の推進

3　未来社会の創造と深化

ミッション①　初等中等教育から大学院課程まで連続した支援システムの拡充
ミッション②　多様な背景を持つ者に対する入試方式の拡大
ミッション③　卒業・修了後も含めたキャリア支援の充実

■経営　人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現

1　組織・体制の拡充と発展

ミッション①　経営組織・支援組織・事務組織の機能の強化
ミッション②　グローバルキャンパスとしての機能の強化
ミッション③　能登里山里海未来創造センターの機能の強化

2　大学人材が有する力の萌芽と伸長

ミッション①　多様化に対応したDX・AX推進、AIの活用による業務の効率化・質的向上
ミッション②　外部の知見・技術の活用によるマネジメント機能の高度化
ミッション③　附属病院の診療・研究・人材育成機能の強化

3　未来社会の創造と深化

ミッション①　イノベーションハブとしてのマネジメントの強化
ミッション②　DEI環境の向上
ミッション③　情報の発信と響創による社会共創基盤の強化

研　究　独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点群の拡充

本学では、世界的視座による優位性・独自性ある研究分野の育成と先鋭化を進めています。世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）「ナノ生命科学研究所」や地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）、先端研究基盤刷新事業（EPOCH）等、我が国の研究力強化を牽引する拠点の形成を推進しています。

これまで培ってきた歴史と真理の追求を礎に、地域と世界を往還させながら現在から未来の社会課題を見据え、フォワード／バックキャストにより、総合大学として文理医の緊密な連携によって基礎研究・応用研究・融合研究を推進し、知的価値を切れ目なく創造します。また、国内外の産学官連携や多種多様なシーズにより、社会課題の解決につながる実証研究を展開し、社会実装により研究成果を社会に還元します。これらにより、文理医融合による非連続なイノベーションを起こす世界的拠点を形成し、未来知により社会に貢献します。さらには、能登里山里海未来創造センターを中心として、本学の知見をもって能登半島の創造的復興を強力に支援し、能登の里山里海に根付いた生業や景観、文化、生物多様性を未来につなぎます。

「志」の実現に向け、研究において以下の３つの視点から９つのミッションを掲げます。また、アクションプランとして、“いま”何を行うのかを明確にした上で、大学改革・機能強化に取り組みます。

1　組織・体制の拡充と発展

世界トップレベルの研究展開、世界的研究拠点群の拡充に向け、研究を牽引する組織や研究支援体制の整備により、研究力を強化します。

ミッション①　統合創成研究環を基軸とした多様な研究の推進

【アクション】幅広い領域の基礎研究やコア技術を活用し、AIにより研究の創造性及び効率性を大きく向上させ、文理医融合研究を一層推進するために、「統合創成研究環」のさらなる強化拡充を図ります。また、復興に資する研究を推進し、組織化を進めます。

ミッション②　世界的視座による優位性・独自性のある研究分野の育成・先鋭化

【アクション】優位性・独自性のある研究分野で世界を先導するWPI級拠点を形成するために、戦略的・組織的な支援を展開します。

ミッション③　研究開発マネジメント機能の強化

【アクション】URA・技術職員等の研究開発マネジメント人材を育成し、高度な専門性を生かした研究開発を展開します。研究基盤共創プラットフォーム「サイエンスコモンズ」を中心としたコアファシリティ機能の強化により、戦略的かつ効率的な研究基盤の充実を図ります。あわせて、地域・広域・国際の三層ネットワークやクラウドの利活用により研究開発を効率化します。

2　大学人材が有する力の萌芽と伸長

世界トップレベルの研究展開、世界的研究拠点群の拡充に向け、研究環境を整備し、意欲的な研究人材を育成することにより、研究力を強化します。

ミッション①　大学院改革と連動した一貫性ある若手研究者支援

【アクション】未来課題を克服する新たな知的価値の創造を目指し、次世代を担う若手研究者を支援します。博士研究人材支援・若手研究者支援パッケージを基軸として、未来社会を担う国際的に卓越した博士人材を育成します。あわせて大学院生の「職」化も進めます。

ミッション②　戦略的・組織的な研究の高度化・国際化による「未来の価値」の創造

【アクション】戦略的研究推進プログラムをはじめとして、中長期的な視点で本学の研究力強化に資する取組を展開します。国際ラボ、海外コラボレーション拠点を基軸に国際共同研究、国際頭脳循環も拡大します。学問領域の多様性を活かした文理医の密な連携により、幅広い領域の基礎研究・応用研究・融合研究を推進し、世界レベルの研究成果を切れ目なく創出します。

ミッション③　全学を挙げての実証研究の展開

【アクション】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出するため、多様なステークホルダーと共創・連携し、キャンパス内の実証研究環境を整備します。未来知実証センターを拠点として、未来社会の実現に向け、共創企画室によるELSIの視点を活かした共創活動を通じて、社会課題を起点とした実証研究を強力に推進します。

3　未来社会の創造と深化

世界トップレベルの研究展開、世界的研究拠点群の拡充に向け、社会との共創による研究展開と研究成果の社会実装を拡大することにより、研究力を強化します。

ミッション①　多種多様なシーズに基づくグローバルな機関と連携した研究の推進

【アクション】多様な学問領域から生まれる研究成果の創出、社会への還元に向け、産学官金連携を組織的に推進します。国内外の企業・自治体等と連携した社会共創に関するプロジェクトや共同利用・共同研究拠点における国際的な研究を展開します。

ミッション②　世界水準の知的財産マネジメント体制やスタートアップ支援体制の深化

【アクション】金沢大学TLO（KUTLO）や大学発VCとの連携を強化し、研究者の育成段階から基礎研究の初期段階、さらに事業化までを一気通貫で強化する国際特許戦略を推進します。北陸地域を中心とした、産学官金連携によるスタートアップ支援体制を深化し、北陸地域をスタートアップ先進地域へと大きく転換させます。

ミッション③　社会実装の最速化による非連続なイノベーションの創出

【アクション】未来知実証センターや先端科学・社会共創推進機構、企業等と連携した北陸未来共創フォーラムをはじめとする多様なプラットフォームを活用し、研究成果の社会実装を最速化します。また、人文社会知・ELSIにより研究成果の社会受容と倫理的展開を加速させます。

教　育　国際社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出

科学技術の急速な進歩により、私たちの知識やスキルのあり方は大きな転換点を迎えています。人工知能技術などの新しい知を柔軟に取り入れ、終わりの見えない紛争や自然災害からの復興といった、現代の課題解決を先導するとともに、未来の課題を探求し克服する人材が求められています。

本学では、自己の使命を国際社会や地域社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなり、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける人材像を、金沢大学＜グローバル＞スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard: KUGS）として掲げています。前身校から続く伝統と文化を受け継ぎ、発展させている本学では、このようなKUGSを兼ね備えた「金沢大学ブランド人材」を輩出することを目指します。

「志」の実現に向け、教育において以下の３つの視点から９つのミッションを掲げます。また、アクションプランとして、“いま”何を行うのかを明確にした上で、大学改革・機能強化に取り組みます。

1　組織・体制の拡充と発展

“金沢大学ブランド人材”の育成・輩出に向け、教育改革を包括的に推進するための体制整備や教育組織の再編等により教育機能を強化します。

ミッション①　未来創成教育環による学修者本位の教育の充実

【アクション】学長直轄による教育改革の抜本的飛躍を担う未来創成教育環を軸に全学で教育改革を推進します。様々な学内外の教育リソースを集約化、見える化し、初等教育から大学院教育まで「学修者主体」を教育改革の主軸に据え、様々な学びを社会に提供します。

ミッション②　大学院の飛躍的な機能強化

【アクション】博士後期課程を中心に大学院の入学定員を拡大し、トランスファラブルスキルを有する人材を育成し、広く社会に輩出します。大学院教育先導機構を中心とした産学連携と国際化を通じて、未来社会を拓く新価値創造人材を育成・輩出します。また、契約学科等の産学連携教育の枠組みも導入します。

ミッション③　社会ニーズにこたえる文理医融合教育の発展と学修環境の充実

【アクション】学士課程から大学院博士後期課程までの一貫した文理医融合教育を展開します。学問領域の多様性を活かし、各学域・研究科の学生が国内外の学生と共に学修する環境を拡充します。海外コラボレーション拠点をはじめとする国内外のネットワークを活用した教育連携を推進し、大学として社会のニーズにこたえます。

2　大学人材が有する力の萌芽と伸長

“金沢大学ブランド人材”の育成・輩出に向け、学び・知を醸成する教育環境の整備等により、教育力を一層強化します。

ミッション①　未来の価値を創出するための「自ら学び・自ら育む」教育環境の高度化

【アクション】学修者が、自らの探求心や時代の要請に応じて、主体的に学べるデジタルコンテンツ・教材を充実します。さらに、XR（クロスリアリティ）技術や生成AI等の高度な新技術を使いこなし、生涯にわたり自ら学び、考え、行動する力を「育み支える教育」へ質的転換を行います。

ミッション②　先導的教育プログラムの展開

【アクション】変化の激しい社会であっても活躍できる人材を育成するため、学問領域の多様性を活かしたSTEAM人材育成プログラム等の教育プログラムを展開します。また、能登をフィールドとした教育プログラムや日本及び世界の災害地域の復興に資する能力を養成する教育プログラムを開発・展開します。

ミッション③　多文化間共修の推進

【アクション】国際社会や地域社会において多様な価値観を受け入れ、活躍できる人材を育成するため、多様な背景を持つ学生が、多彩な伝統文化・芸術や、世界農業遺産／ユネスコ世界ジオパーク・エコパークなど豊かな自然環境に恵まれた学都石川で学び合い、成長できる交流の場を提供します。その成果を可視化し、海外の連携大学にも発信します。これらを「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」による国際化につなげ、「国際城下町構想」の実現を目指します。

3　未来社会の創造と深化

“金沢大学ブランド人材”の育成・輩出に向け、多様な学生を入学から卒業・修了後まで一貫して支援します。学生と大学、学生間、学生と社会との連携を強化します。

ミッション①　初等中等教育から大学院課程まで連続した支援システムの拡充

【アクション】初等中等教育に始まり学士課程、大学院課程まで一貫した教育・学生支援を行います。

ミッション②　多様な背景を持つ者に対する入試方式の拡大

【アクション】留学生、社会人等の多様な背景を持つ者の受け入れを拡大するための入試改革を行い、その成果を国内外に発信していきます。

ミッション③　卒業・修了後も含めたキャリア支援の充実

【アクション】学生の専門的知見の伸長に加え、刷新されていく社会で必要とされる知識・知恵・スキルを醸成するための社会との連携を強化します。新たなスキルや知識の獲得、能力の向上を目指すために、産学官連携や成長分野等におけるリ・スキリングプログラムを拡充します。

経　営　人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現

大学が社会からの期待に応え、その役割を果たす上で、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出すことが求められています。強みや特色を生かし、学問の進展やイノベーション創出などに最大限貢献できる組織へ転換していくことが不可欠です。

社会的インパクトを生む総合知のイノベーションハブとなるべく、学長のリーダーシップの下、教職員が協働し先駆的・戦略的な改革を推進します。また、地域や海外を含めた多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた資金・人・知が好循環する持続可能な大学運営を行い、未来社会の創造と国際化を目指します。

「志」の実現に向け、経営において以下の３つの視点から９つのミッションを掲げます。また、アクションプランとして、“いま”何を行うのかを明確にした上で、大学改革・機能強化に取り組みます。

1　組織・体制の拡充と発展

持続可能で自律的な経営の実現に向け、大学改革の進展に応じた組織の再編やキャンパスの機能拡充等により体制を強化します。

ミッション①　経営組織・支援組織・事務組織の機能の強化

【アクション】経営面の司令塔として基盤創成経営環（仮称）を創設し、統合IR機構によるDDDM（Data Driven Decision Making）を実現します。あわせて、ERM（Enterprise Risk Management）委員会（仮称）の設置及びCRO（Chief Risk Officer）の配置により、全学的リスクマネジメントを高度化します。多様な知見を有する人材による効果的・効率的な経営を推進します。目的やプロジェクトに応じ、柔軟に対応するために支援組織や事務組織を強化します。外部資金の獲得や資産の戦略的運用を推進する体制を強化し、安定的な財源確保を通じて経営基盤の強化を図ります。

ミッション②　グローバルキャンパスとしての機能の強化

【アクション】キャンパスの国際化を一層推進し、新たなイノベーションを生み出し続ける環境をつくります。50年先を見据えた施設マネジメントの下、施設整備・設備整備、運営体制の強化、新たな仕組みの導入等により、各キャンパスの研究・教育機能や診療機能を強化し、地域に還元します。

ミッション③　能登里山里海未来創造センターの機能の強化

【アクション】能登里山里海未来創造センターを中心に、地域・自治体・企業との協調・共創と文理医の融合により、能登における教育、医療、文化、産業の再生・復興そして継続的発展を推進します。さらに、国内外の機関等と連携しながら能登サテライトキャンパス構想及び研究所構想を実現し、国際的な機能も強化します。「オフグリッド集落」等の能登モデルを国内外へ展開します。

2　大学人材が有する力の萌芽と伸長

持続可能で自律的な運営・経営の実現に向け、職員の業務効率の向上や仕事の質的向上を図るため、外部知見の活用も含めた働き方改革を推進します。

ミッション①　多様化に対応したDX・AX推進、AIの活用による業務の効率化・質的向上

【アクション】AIを活用した業務の合理化・自動化等、DX・AX推進を担う職員の育成を強化します。AXによる業務の軽減を図るとともに、業務全体を見直し、業務削減・業務改善を強化します。

ミッション②　外部の知見・技術の活用によるマネジメント機能の高度化

【アクション】教職員に求められる「職務」と「資質」を明確にし、知識や経験を有したジョブ型職員の採用や高度専門人材の育成を推進し、人事給与制度改革を行うとともに、組織における人材の多様性を促す仕組みを構築します。外部資金の獲得拡大など経営マネジメント等に係る抜本的改革を推進します。外部の知見・技術を学内で共有し、職員のマネジメント能力の向上を図ります。人材獲得・処遇・評価を一体的に見直すとともに、職員のキャリアパスの見える化を図ります。

ミッション③　附属病院の診療・研究・人材育成機能の強化

【アクション】未来の医療を支え、地域に愛され世界で輝く医療機関となるため、文理医融合の研究を推進します。多職種連携によるチーム医療を核として、教育・研修機能を強化します。関連病院群とのネットワークを基盤とした広域医療連携モデル「KNOT（Kanazawa Nexus for Optimized Team-based Care）」を構築し、持続可能な広域地域医療体制を確立します。国際臨床研修センターを基軸とし、海外機関との臨床研究連携を強化します。

3　未来社会の創造と深化

持続可能で自律的な運営・経営の実現に向け、社会と人・知・ことの循環を確立するため、連携体制を強化します。

ミッション①　イノベーションハブとしてのマネジメントの強化

【アクション】コストカット型経営から「人・知・ことへの投資」の好循環を生み出す経営へ転換し、最高学府またイノベーションハブとして、本学の知を核に、多様な人材・知・資金が地域と世界へ循環するイノベーションエコシステムを構築し、展開します。地域・広域・国際の三層ネットワークを連結する「知の結節点」となります。

ミッション②　DEI環境の向上

【アクション】ダイバーシティ推進機構を中心として、全構成員が志高く自らの能力を最大限に発揮し、国際的にも活躍できるダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン（DEI）環境を整備します。

ミッション③　情報の発信と響創による社会共創基盤の強化

【アクション】経営改革を反映してブランディング・広報戦略を不断に改善し、その戦略に沿った効果的な広報を行います。多様な媒体を通じて魅力的なコンテンツを提供し、本学の研究、教育、社会貢献等の成果・活動を、よりわかりやすく伝えていきます。北陸未来共創フォーラムを中心に北陸地域の多様なステークホルダーと連携し、地域創生に向けた共創事業を拡大します。また、能登里山里海未来創造センターを中心に、能登地域の持続的発展に資する産学官金の連携体制を強化します。

創造的復興に向けて

金沢大学の英知を集結し、「地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与します

令和６年１月１日に発生した令和６年能登半島地震及び令和６年９月に発生した奥能登豪雨により、能登半島を中心に、各地で甚大な被害が生じました。金沢大学は、復興にあたって、能登が持つ素晴らしい里山里海や文化を継承しつつ、人口減少や高齢化といった以前からの課題を踏まえ、よりよい暮らし、生業を実現する「創造的復興」に尽力し続けます。

金沢大学は、旧制第四高等学校等の前身校から受け継いだ歴史と伝統をもとに、革新を織り込む気風を有しています。その気風は今でも受け継がれ、金沢大学憲章に掲げる基本理念「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」のもと、令和4年度からは「**地域と世界の2つの視点を互いに往還させながら、未来の課題を探求し克服する知恵『未来知』により社会貢献を果たすこと**」を揺るぎない未来ビジョンとして、研究教育に取り組んでいます。震災を目の当たりにし、災害復興にはあらゆる知を俯瞰的に捉え、総合的に活用し対応していく必要があるということを改めて認識させられました。まさに未来知による社会貢献が問われています。そこで、これまで培ってきた歴史と真理の追求を礎としながら、中長期的視点による、能登の教育、医療、文化、産業の復興・再生そして継続的発展を強力に推進するため、令和６年１月30日に「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。本センターを中心に、総合大学である金沢大学の英知を集結し、復興を基軸とした実証研究の展開、復興に資する人材の輩出、文理医の融合により、現在と未来の課題を克服し、能登の創造的未来を創っていきます。そして、地域の外にも目を向け、新しい社会の姿と今後国内外で起こりうる地震・災害に対応できる災害克服の知見を全世界に発信していきます。

我々は、**地域と世界に目を向け、未来知により能登の創造的復興に取り組み、新たな未来の価値を創造します。**

能登の創造的復興に向けて

私たちは、震災からの復旧・復興に向け、次のことに取り組みます。これらは、未来ビジョン「志」の中において、研究・教育・経営のそれぞれでミッションとアクションとして掲げています。

- 創造的復興に向け、本学の知識と知恵を結集し、半島医療やまちづくり、なりわいづくりに繋がる研究を進めていきます。さらに、能登をフィールドにした実証研究・基礎研究を地域とともに進め、地域に寄り添いながら、能登の人づくり・まちづくりに寄与します。

ミッション　統合創成研究環を基軸とした多様な研究の推進　【研究】

【アクション】復興に資する研究を推進し、組織化を進めます。

- 能登の社会的な地域特性や防災・減災に関する科学的知見などを学び、自身の専門分野を活かして復旧・復興に貢献できる人材を育成します。

ミッション　先導的教育プログラムの展開　【教育】

【アクション】能登をフィールドとした教育プログラムや日本及び世界の災害地域の復興に資する能力を養成する教育プログラムを開発・展開します。

- 復旧・復興はもちろんのこと、教育、医療、文化、産業の再生そして持続的発展のため、能登里山里海未来創造センターを中心に、地域・自治体・企業と協調・共創し、全力で取り組みます。

ミッション　能登里山里海未来創造センターの機能の強化　【経営】

【アクション】能登里山里海未来創造センターを中心に、地域・自治体・企業との協調・共創と文理医の融合により、能登における教育、医療、文化、産業の再生・復興そして継続的発展を推進します。さらに、国内外の機関等と連携しながら能登サテライトキャンパス構想及び研究所構想を実現し、国際的な機能も強化します。「オフグリッド集落」等の能登モデルを国内外へ展開します。

［編集・発行］金沢大学改革戦略室
〒920-1192　金沢市角間町
https://www.kanazawa-u.ac.jp